

機器分析学 A

(Instrumental Analysis A)

担当教員名: 准教授 北出 達也

【概要】

物質中に何がどれだけ含まれているのか、またそれはどのような化学構造を持っているのか、ということを知る手段である分析法なくして化学は成り立たないと言っても過言ではない。特に微量な試料量で簡便迅速かつ精度良く正確に測定できる機器を用いた分析法は、薬学の分野では研究の遂行、医薬品の製造、品質管理、あるいは臨床検査、環境計測など、あらゆる場面において必要不可欠な手段となっている。したがって、それらの原理や装置の仕組みを理解し、適切な試料調整法を知り、またデータ解析法について習熟している必要がある。また、目的に対して効率よく効果的に使用するための機器分析法の選択や、分析機器を正しく利用するためには、各分析法の特性や基本的な事柄を正しく理解することが要求される。機器分析学 A では薬学分野において広く用いられている重要な機器分析法のうち、電磁波を応用した機器分析法を中心に講述する。

【授業の一般目標】

電磁波を応用した機器分析法を中心として、それらの原理や装置の構成ならびに測定方法を理解し、スペクトルの解析法を習得する。

【成績評価方法・基準】原則として、定期試験で評価する。

【備考】(担当教員に対する質問等の連絡方法)

薬品分析学教室の研究室(8号館3階)まで来て下さい。